



第31回代表委員会開催

2015年1月11日～12日の両日、全国家電会館5F講堂にて全労連青年部第31回代表委員会を開催、代議員、傍聴を合わせて7単産、16地方組織から28人、常任、事務局を合わせて44人が参加しました。代表委員会では15青年春闘方針とスローガン『すべての青年労働者の賃上げ・良質な雇用を実現しよう～青年が動けば、世界が変わる2015年青年春闘～』を決定しました。



議案提案に先立って、広瀬政美岐阜民医労青年部書記長による講演「青年が主体的に企画するための場づくり」が行われ「会議に参加できなくとも、参加できたことへの喜び、参加してもらった時の感謝、行けなかった時の悔しさ、悲しさなどの共有があることによって、次回へ励みにもなっている」など岐阜での青年の活動について語られました。

討論

討論では19組織19人が発言。「年休について自分から聞かないとどういった制度なのかわからない実態が明らかになった。周知徹底の責任を文科省には追及していきたい」（全教）、「1503名の参加でオキプロネクストを開催した。その後、青年部がなかったところに青年部ができたりしていたりと活性化を感じることができた」（自治労連）、「8・20に発生した大規模な土砂災害に全国から暖かい支援があったため感謝している。広島災帯連を結成し物資を届けたりお見舞い金を出したりできた」（広島）等各組織から青年の現状や様々な取り組みが報告されました。



署名宣伝行動



1日目討議終了後、御茶ノ水駅において参加者全員で「核兵器廃絶アピール署名」に取り組み、リーフレットを配りながら署名の協力を呼びかけ、約1時間の宣伝で62筆の署名を集約しました。署名に協力してくれた方からは、「広島・長崎のことを考えると絶対に無くさないといけない」「福島原発事故と核兵器は同じだ。絶対に許せない」といった声が寄せられました。そして、代表委員会では署名で集めた声に確信を持って、核兵器廃絶のために署名活動や学習などを地域から進め、NPT再検討会議を通じて世界に発信して決意を固めました。

2日目冒頭には、岩橋祐治全労連常任幹事が6月から開催を予定している全労連初級教育講座について「労働組合の基礎理論を体系的に学べ、労働者・労働組合の権利、運営の基本、要求課題などの基本を漫画も交えてわかりやすく紹介、県労連、地域労連や産別の重要性、労働組合の歴史を知って活動に確信がもてます」と紹介。全労連初級教育講座への参加が呼びかけられました。

最後にアピールを採択し、中田副議長が閉会挨拶、細川副議長の団結頑張ろうで決意を固め合い代表委員会を終了しました。

2015青年春闘アピール

すべての青年労働者の賃上げ・良質な雇用を実現しよう

～青年が動けば、世界が変わる2015年青年春闘～

私たち全労連青年部は、「まともな賃金を勝ちとろう」「働き続けることのできる労働条件の実現」「平和と憲法を守れ」の要求実現をめざし、全国から集まった青年の活発な討論と交流によって、2015年青年春闘方針を確立しました。

失業、就職難の増加、長時間労働の強要、サービス残業、低賃金など青年の不安は増しつつあります。しかし、安倍首相はまともな雇用と賃金を求める青年の声を無視して、解雇の自由化、残業代ゼロ法案、労働者派遣法の規制緩和などブラック企業を合法化しようとしています。さらには、集団的自衛権行使容認、秘密保護法の強行など戦争する国づくりを進めています。

2日間に渡る討論では、「働く権利を知らないままに社会に出ている青年が多い」「高校生の間にもブラックバイトの問題がある」という青年の置かれている厳しい実態についての発言がありました。それでも、「青年部として働くルールの理解を深めていく」「活動を目に見えるように工夫していく」「ハラスメント解決に向けて寄り添っていける組織作りが大切」とする青年の力強い決意表明がありました。組織拡大について、「労働組合活動で大切なのはつながり作る。青年自身で活動をつくっていく」「参加者がやってみたいと思える前向きな組織づくりを目指す」との発言があり、「学習会に参加した大学生が社会人になったら組合に入ると言ってくれた」「交流会に参加した青年が組合加入を決意した」という成功例もありました。

活動を進めるうえで、「会議を開いても集まらない」「主体的に活動に参加して欲しい」などの悩みは尽きません。今回の代表委員会では岐阜の青年たちの取り組みから、「一緒に活動を続けていくことのできる仲間を作らないといけない。そのために大切なのは信頼関係だ」ということを学びました。青年部活動を通じて、地域の青年と「つながり」を大切に、青年の声に寄り添った取り組みを全国でひろげていきましょう。

今年は戦後70年という節目であり、NPT再検討会議が開催されます。1日目の休会后、私たちは核兵器廃絶の街頭宣伝を行いました。「広島・長崎のことを考えると絶対に無くさないといけない」「未来の子どもたちに負の遺産を残すべきでない」「福島原発事故と核兵器は同じだ。絶対に許せない」といった声が寄せられました。「核兵器いらない」、署名で集めた声に確信を持って、核兵器廃絶のために、署名活動や学習などを地域から進め、NPT再検討会議を通じて世界に発信していきましょう。

いま戦前の日本を「美しい国」と標榜する安倍政権によって、日本が再び戦争する国に変えられようとしています。戦争になれば真っ先に犠牲になるのは青年です。青年がまともに生活できて、憲法をまもりいかなる社会を実現するために声を上げていきましょう。

青年が労働組合に結集すれば、社会を変える大きな力を発揮できます。賃上げ、労働条件の向上などはもちろんのこと、話し合いを大切に、青年一人ひとりの願いを実現する春闘を共に闘いましょう。



2015年1月12日
全国労働組合総連合青年部
第31回代表委員会